がん登録担当者研修会

ITO Hidemi
伊藤 秀美
愛知県がんセンター / JACR 理事

４年ぶりの対面開催となった「第３２回日本がん登録協議会学術集会」において「がん登録担当者研修会」（以降、研修会）が行われました。この研修会には１４５名が参加し、活発な議論と質疑応答を交えた充実した時間となりました。

今回の研修会のテーマは「がん登録情報の提供時における手続き」で、全国・院内がん登録情報の円滑な提供が可能となるよう、重要な法律や指針について学び、情報提供に関して先進的な例を学ぶ機会となりました。

松坂方士さん（弘前大学）には、がん登録推進法に加え、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針や個人情報保護法について、その関係性を明示し分かりやすく概説いただきました。田中里奈さん（同大）は、全国がん登録顕名情報提供の経験を基に、特に青森県のがん検診の精度管理を目的とした行政への情報提供の具体的な流れについて解説されました。この中で、がん登録室における作業効率化のための工夫や、登録室と県の間の役割分担についても詳細に触れていただきました。大阪国際がんセンターの桒原佳宏さんは、Web 申請システムを通じた全国がん登録情報提供の効率化と利便性の向上についてご紹介いただきました。また、島根大学医学部附属病院の中林愛恵さんには、研究目的の院内外へのがん登録情報提供体制の構築についての経験を共有していただきました。相談に応じる、提供可能なデータを整理し公表するなどの地道な利用促進活動の重要性も強調されました。大阪医科薬科大学病院の松本吉史さんは、二次医療圏内のがん拠点病院で患者状況の把握を通じてがん診療の向上を目指す分析を行うことを目的とした病院間のがん登録の集計情報の共有について、データ利用の手順や作業の実際についてご紹介いただきました。

講師陣が共通して強調したのは、情報提供体制を構築するにはがん登録推進法だけでなく個人情報保護法や関連法令、指針、ガイドライン、マニュアルなどを理解することが不可欠であるということ、そして提供される情報は明確な目的に基づいて利用されるべきだという考えでした。具体的で実践的な内容についてご講演いただいた講師の皆様に感謝申し上げます。そして、今回の研修会がが登録情報の利活用の推進に大いに寄与することを期待しています。

コロナボケ覚醒 in 実務でGo!

OTSUKA Rika
大塚理可
岡山大学病院診療情報管理室

ポスター発表と時間が重なるため参加登録をしていなかったのですが、飛び入り可能とのことで急遽参加させていただきました。前回までの Web 開催時にもファシリテーターとして参加させていただきましたが、やはり、対面は打ち解けやすく、伝わり方が違うとしみじみ感じました。

グループ別交流会は「Case Finding・運用」「データ提供手続」「人材育成」「報告書」「研修会」「統計解析」とテーマ別に分かれ、最後に話し合った内容を発表という流れでした。私はグループ３「人材育成」でした。実のところ、今までこのことについて特に考えた事がありませんでしたが、新卒の実務者を抱えている施設の悩みや、自分達の若かりし頃とは自己研鑽意欲が違い過ぎてうまく伝わらず、モチベーションを上げられなくて苦労しているという話を伺って、当院でも同じだと共感しました。

他のグループでも、「報告書」では対象者を何処に絞るか、医師に知ってもらうにはどうしたらいいか、「研修会」では今後の開催方法をどうしていくか、マンネリ化の問題や新たに参加者を増やすにはどうすべきか、「統計解析」では勉強の場がない、どのような目的、ニーズ、目線に合わせてデータを出していくか等の意見が出ており、当院にも当てはまることばかりで、今まで蓋をしていた問題とも向き合っていかなければと、痛感させられました。

登録のための知識を増やしたい、登録の精度も上げていきたい、報告書も改良したい、蓄積したデータを集計・還元したい。対面での交流は感じるもの、得るものが多く、参加者の方々の積極的な意見に色々と気づかされ、熱意をもらい、コロナ後下がったままで、なかなか持ち上げられなかったモチベーションを引っ張り上げていただきました。次回の島根でも参加したいと感じましたし、他の実務者の方々にも是非参加いただきたいと思います。